

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町 4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>[menu000000500/hpg000000416.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm)

有志開道

氷見市小学校長会 会長

氷見市立窪小学校 校長 山崎 外美雄

～よさを広める「〇〇年生のキラキラ」～

教務主任が、担任やその学年の授業に出ている教員と連携し、学年棟の白板に学級ごとの子どもの成長を毎日書き綴っている。見出しのタイトルで、もう4か月以上続いている。内容は、学習や生活態度、掃除や給食でのことなど学校生活全般にわたる観点から書かれている。この言葉を、立ち止まって嬉しそうに見ている子、照れながら見ていく子など様々であり、続けているうちに子どもたちが少しずつ変容していくのが分かる。そしてこの取組が他の学級や学年にも広まり、子どもたちの自己肯定感を高める一助となっている。

複数の眼で見るからこそ見えてくるよさや成長もあり、継続することにより教師の子どもを見る眼も育ってきているように感じる。

～よさを共有「ほかほかスピーチ」～

終礼時、「ほかほかスピーチ」と称して、その日の当番の教員が学級の子どもの様子や変容、嬉しかったことや心に残ったことなどを輪番で話している。わずか3分程度の時間であるが、1年以上続いている。定着するにつれてこの時間は、全教職員が学級・学年の枠を超えて子どもを知り、理解する大切な時間になるとともに、互いの指導方法を学び合う場ともなっている。

その日スピーチする教員の前には、かわいいマスコット人形が置かれ、話す人にも聞く人にもほかほか温かい気持ちを届けてくれる。子どものよさの共有は、全校体制による教育活動の推進にもつながっている。

～チームで支援「その子の思い」～

学習になかなか参加できない子どもがいる。そんな子どもたちに学習が成立する手立てを校内研修で話し合い、効果的だと思われる方法を実践し

ている。

例えば、1年国語科「お店やさんごっこ」の学習では、どんな店にも興味を示さなかったA君が、「銀行」に反応を示したことを担任が察知し、事前にスタディ・メイトと協力しながら紙でお金を作らせ銀行員の役割を与えたところ、友達と楽しそうに買い物ごっこをして学習に参加することができた。

子どものよりよき変容は担任の喜びであり、次の実践への意欲化へとつながる。チームで指導方針を決め、諦めずに取り組むことの大切さを改めて痛感した。

～地域と連携「あいさつ10運動」～

挨拶の習慣化を目指し、学級で繰り返し指導しているがなかなか定着しない。そこで、5月から定期的に「あいさつ10運動」週間を実施することにした。本校は毎日集団登校をしているので、学校へ来るまでに家族や友達、地域の人など10人以上に挨拶をしようという取組だ。この際、子どもたちの挨拶運動に対する自己評価に加えて外部評価の一環として、校区の方々にアンケート(学期ごと)をとって調査を行った。すると「よく(だいたい)できた」の割合がアップするとともに、地域から様々な建設的な意見も寄せられた。

具体的な数値目標を示し、地域の協力を得ながら全校で取り組んだことが少しずつ効を奏してきたようである。

これらの実践を通して強く感じることもある。それは、現状認識と課題把握に対する教師の感性、具体的な対策と行動力。そして継続して取り組み、やり遂げようとする教師集団の意志力と同僚性の大切さである。

換言すれば「有志開道」の精神といえる。

～ 研究推進委員会報告 ～

小中連携・学力向上推進委員会

教科指導系統表と学習プリントの作成

十三中学校 校長 上 隆義

本委員会は、児童生徒の学力向上に資するため、教師対象に「小中学校の学びを繋ぐ教科指導系統表」、小学校6年生対象に「学習プリント」を作成しました。

「小中学校の学びを繋ぐ教科指導系統表」は、教科ごとに小中の学習内容の系統性、関連性、発展性分かるようにまとめたものです。9年間の義務教育では、小学校の学習内容を土台にして、中学校でさらに広がりや深まりのある学習が進められます。そこで、小学校の教師は中学校の、中学校の教師は小学校の学習内容を把握し、教科の系統性を理解した授業づくりが求められています。本系統表が小中双方の教師にとって子どもの9年間の学びを見通した授業、そのきっかけになればと思っています。

小学校6年生対象の「問題プリント」は、小学校の学習内容の中で理解に落ち込みがみられる内容を洗い出し、それを克服するための学習教材として作りました。盛り込んだ内容は、教科ごとに小中双方のメンバーが意見を出し合い、作成の趣旨に沿って絞り込みました。小学校での学習内容の振り返りとして、有効に活用していただきたいと思います。小学生が苦手とする学習内容の克服を目指す「問題プリント」作りは、特に中学校のメンバーにとって、小から中に繋がる教科の系統性や小学校での学習内容の理解のためにもとても有意義なものでした。

ところで、小教研学力調査結果及び中教研学力調査結果をもとに、小学校から中学校まで、学年を追って教科ごとの度数分布を並べてみると、どの教科も中学校1年生では概して度数分布が横に広がり、平均点が下がる傾向があります。中学校では学習する内容が増える上に難しくなるので、予想されることではありますが、小学校の問題に馴染んだ中学校1年生にとって、中学校で目にする問題は教師が考える以上に難しく映っているのかもしれない。「中1ギャップ」はそんなところにもある、今回の作問作業の中で気付かされたことの一つです。

いじめ対策研究委員会

いじめを生まないために

西條中学校 校長 河上 昌俊

いじめはどの子にも起こりうるものです。多くの子どもが被害者も加害者も経験しているということを踏まえ、児童生徒の尊厳を守り、全ての児童生徒をいじめに向かわせないための未然防止に、全ての教職員が取り組むことから始めていく必要があるといわれています。さらに、学校の教育活動全体を通じた豊かな心の育成の大切さや、児童生徒の主体的な活動の推進も効果があるといわれています。そこで本委員会では、いじめの未然防止を目指し、各研究委員が自校の現状や実態に応じてどのような取組ができるか考え、実践したことをリーフレットにまとめました。まず、「いじめを生まない学級」を目指して、道徳の時間や学級活動の時間を使っての実践例を載せました。小学校4年生、5年生、中学校1年生、2年生の実践例があります。また、「いじめを生まない学校」を目指して、児童会活動や生徒会活動での取組を紹介させていただきました。

いじめの未然防止の基本は、全ての児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができ、規則正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくりを進めていくことから始まります。学級や学年、学校が児童生徒の居場所になるようにしていくことや子ども自らが主体的に取り組む活動の中で、互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりできることが大切です。

今回作成した実践リーフレットは取組の一例であり、もっと効果的な実践も考えられると思います。市内の先生方の実践例が互いに活用できるようになれば更に充実したものになると考えています。今年度の実践リーフレット「いじめを生まないために」が、市内の小中学校の先生方のいじめの未然防止の取組への一助になることを期待しております。

新採教員 この1年を振り返って

生徒との関わりの中で



北部中学校 柿谷 俊輔

この一年間の勤務を通して、私は生徒との信頼関係がとても大切だと感じた。生徒と真剣に向き合うためには、心と心が深く結び合うことがとても重要だと思うからである。これまで生徒と向き合う中で、辛いこともあれば、大きく感動することもあった。しかし、そうした経験が自分自身を大いに成長させてくれたと思う。今後も、生徒との信頼関係を築くためにより一層努力し、生徒を惹きつける授業力、人間性を磨いていきたい。

学び多き一年



西部中学校 間嶋 祐未

生徒の「おはようございます。」という明るい声と、先輩方の温かい言葉に助けられながらこの1年を駆け抜けてきた。

箏の授業を行った際、ある生徒の感想に「物を大切に扱うことを学んだ。」と書いてあり、はっとした。箏の扱い方について細かく注意してきたが、そのように言葉はかけていない。自分の発言や行動が生徒に影響することを改めて感じ、授業力を高めたいという思いがより強くなった。また1つ、生徒から学ばせてもらった。

1年間を振り返って



湖南小学校 浦山 咲姫

4月から正式に念願の養護教諭になることができ、もうすぐ1年が経つ。この1年間、様々な経験を通して、傷病の判断や処置などの専門職としての責任、学校組織の一員として教育活動に携わる責任の重さを実感した。

また、子どもに対し誠実に関わっていれば、子どもは心を開いてくれることを学んだ。今後さらに、どんな時も子どもたちの目線で考え、等身大の自分で、子どもの気持ちに寄り添うことのできる養護教諭を目指し、努力したい。

信頼される養護教諭に



灘浦小学校 村田 萌子

地元を離れ、不安な気持ちでスタートした4月。心身の健康づくりを支援していきたいと思いつつも、力になっているのだろうかと思いつつも、子どもたちが心身共に成長している姿を見て、養護教諭になってよかったと思う。今、子どもたちが私を頼って保健室に来てくれる。少しずつ信頼関係が築けているのかなと感じる。子どもたちに「一人一人がかけがえのない存在」であることを伝え、安心感を与えられるような養護教諭でありたい。

「ほっ」とする保健室を目指して



速川小学校 清水 景子

朝、子どもたちの元気な歌声が校舎に響き渡る。しばらくすると保健係が健康観察の報告にくる。「〇〇さんがかぜ気味です。」「全員元気です！」全員登校していると、うれしい気持ちになる。

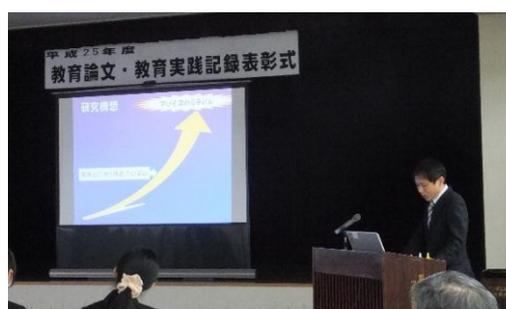
全校児童45名、一人一人の子どもたちと接する機会は十分にある。子どもたちの訴えに時間をかけて対応し、心に寄り添うことを心がけてきた。まだまだ力不足だと感じる場面は多くあるが、子どもたちに「ほっ」とする安心感を与えられる、そんな保健室の雰囲気づくりに努めていきたい。

平成 25 年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、8編の応募があり、その審査結果は下記のとおりでした。

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
一席	朝日丘小学校	坂田 和彦	子どもが学びを深める毎日の授業を目指して
二席	窪小学校	金森 佑美	主体的に関わり合って学び合う授業の在り方
三席	海峰小学校	研究推進委員会	主体的に考え、互いに関わりながら学びの質を高める子どもの育成
入選	朝日丘小学校	船場 涼介	望ましい集団活動を通して自己有用感を高め、他者を思いやることのできる子どもの育成を目指して
入選	比美乃江小学校	戸谷 亜希子	進んで対象と関わり自信をもって活動する子どもの育成を目指して
入選	窪小学校	松谷 彩加	意欲をもって学び、互いのよさを認め合う温かい学級づくり
入選	湖南小学校	浦山 咲姫	自分の健康を見つめ、主体的に健康な生活習慣を身に付ける子どもの育成を目指して
入選	灘浦小学校	研修部	進んで学び合い、考えを深め合う子どもの育成

去る2月13日に橋本昭雄教育委員長をはじめ教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。前辻教育長からの授賞後、西部教育事務所野原浩昭主任指導主事より講評をいただきました。最後に、一席受賞者の坂田教諭が、「子どもが学びを深める毎日の授業」と題して、社会科・理科・総合的な学習の時間の授業実践について発表しました。授業における「目指す子どもの姿」を明確に描き、教科の特性に応じた多面的な工夫を凝らして、日々の授業に真摯に向き合った実践です。詳細については、当センター発行の「平成25年度 教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。



先生方は、これまでの応募経験の有無にかかわらず、今回受賞された先生方のように、個人研修課題や学校課題に向けて、個人またはグループで、日々研究実践を行っておられます。来年度は、その成果の一端をまとめられ、それを多くの先生方に広める意味でも教育論文・教育実践記録の募集にぜひ応募してください。多くの先生方からの応募をお願いします。